

仲間と団結 万倍の力



タイミングを合わせてフラフープを床に下ろす「ヘリウムリング」に挑戦する生徒たち

八戸市の長者中学校2年生82人がこのほど、八戸学院大ラグビー部の山下祐史ヘッドコーチ（HC）らの指導の下、メンバー個々のスキルや能力を最大限に発揮させ、目的達成を目指すチームをつくり上げる「チームビルディング」を体験した。生徒たちは3クラス対抗で宝集め競争やライン鬼ごっこなどの競技に取り組み、コミュニケーションの大切さや仲間と団結する楽しさを実感した。

新型コロナウイルスの制限緩和を受け、生徒同士がコミュニケーションを深める機会をつくること、同校PTA2学年委員会（金入教人委員長）が企画。山下HCのほか、同大男子ラグ

ハ P

長者中生 チームビルディング体験

ビー部員8人も講師として参加した。

10人1チームでフラフープを1本の指に載せ、全員が指を離さずに床へ下ろす速さを競う「ヘリウムリング」では、初めのうちはフラフープから指が離れたり、下ろすスピードが合わなかったりと苦戦。大学生のアドバイスを受け、声をかけ合ってフラフープを床まで下ろすと「できたー」と笑顔で仲間と喜び合っていた。

三浦優毅さん（13）は「息を合わせ、かけ声をそろえながらフラフープを下ろすよつ気をつけた。クラスの団結力が高まった気がする」と笑顔で語った。

（千葉真由美）